



■ 国内競技における 音響について コマンダー金澤

先月号では救急体制について書きましたが、今月も直接パワーリフティング競技そのものについてではありませんが、近年何処の競技場でも音響業務（以下 P.A.=PUBLIC ADDRESS）はつきものであるのもので、各協会でも色々お考えのこともあるでしょう。

現在のところ、経験上申し上げられるのは数えるほども居ないと思いますが、こちらがどんな風に作業をしているのか、そして競技場でどんなことに注意をすればいいのかを書いてみます。

これも知っておくと便利なので、是非とも参考にされて下さい。

○最低限の機材がない場合

一般的に競技以外でも見かけるのが、スピーカーとワイアレスマイクがセットになったもので、スピーカー 1 本につきワイアレスマイクも 1 本が殆どで、スピーカーも取っ手がついてて運ぶのも便利。

しかし、これを地面や床に直置きされてるところが十中八九で活かしきれてないです。立ってる人が大半なので、スピーカーの位置は例えばパイプ椅子の上に乘せるなどすれば音は遠くに飛びます。直置きされてるものは聞き取りにくいですね。

若しこのセットが 2 つあったら、マイクの周波数を合わせればステレオ出しが出来ます。因みにマイクの必要性ですが、声の増幅つまり進行と主審のノドの負担を軽減することです。

まさにこれにつきます。マイクがあってスタンドがあれば望ましいです。スタンドの下にゴムを敷いておくとうハウリング防止になります。ちょっとしたことですが、割と安価なものです。

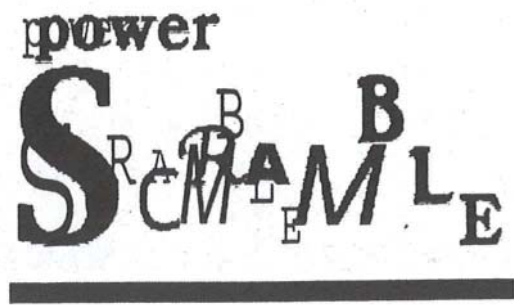
(写真 1) マイクスタンドに敷いてる円形のゴム。



これはホームセンターにこのままで販売されていた。1 枚 150 円程度だったと記憶にある。スピーカーをテーブルの上に乘せたりする場合も同様にゴム板を敷くといいです。

○ P.A. セットがある場合と無い場合

無いところが殆どと言って間違いないでしょう。最低限としてマイク 2 ～ 3 本、ミキサー（パワーアンプと一体型になったパワードミキサーなど）、スピーカー 2 本、国歌を流したりするのに C.D. プレーヤー等があれば出来ます。



無い場合の例ですが、何でもレンタル屋、楽器店などでの貸し出しがありますが、オペレーターは基本的につきません。つく場合は別途日当などが発生します。

あと、機材の貸し出しは自身で行い、時間内に返却に行くというレンタカーと全く同じ状況になりますので、競技終了時間が大幅に長引く時は注意が必要です。

マイクと C.D. プレーヤーのケーブルをミキサーに入力→パワードミキサーからスピーカーケーブルをスピーカーに接続すると音が出ます。

レンタルの場合の注意ですが、スピーカーケーブルが、その会場で何メートル必要なのかなど予め調べておく必要があったりします。

スピーカーは勿論スタンドがあれば望ましいですが、レンタル品でも大概ついてますので安心していいと思います。間違っても床に直置きはやめましょう。

レンタル費用については貸し出しをしてくれるお店によりバラツキがあります。自分が知ってる範囲では 2 ～ 3 万円ぐらいのところを幾つか見えています。

○スピーカーの設置場所について

プラットフォームの後ろ側・・・主審と向かい合わせになる様にする以外にありません。メインスピーカーは主審より後ろ側の観客席に明確に音を送る必要からです。

スピーカーがプラットフォーム内の選手と向かい合ってるのは論外で、会場に出て音そのものに違和感が出ます。スポーツマスターズ 2015 いしかわでの設置状況を参考に御覧下さい。この位置が理想です。

○ミキサーは何をするもの？

原稿を書く少し前に或るホールロビーで、自分の機材を組んでるときにミキサーの写真を撮っておきました。これは、或るバンドの P.A. をやったときのもので、横一列に KICK、SNARE1、SNARE2・・・とあります。この様にどの機材のケーブルが、どこのチャンネルに入ってるかを記載してあり、白の上下に動くスイッチ（フェーダーと呼びます）で音のバランスをとります。

大き過ぎるなら少し下げる。小さいと感じれば上げる。全体の音量を上げるときは右側にある 2 つのフェーダーを上げるなどの作業をします。

ミキサーの中央にある青いスイッチで音質を調整します。大まかに音がキンキンしない様にこもることなく一番聞こえがいい位置に調整します。

実はこの作業を瞬時にしないとダメで、非常に難しい作業になります。人が一気に入場したら音がこもります（誰でも解ります）ので、LOW を少しカットして HIGH を少し上げてみる。

逆に人が一気に退場すると高音が目立ちスカスカな音になります。そうすると逆の操作をします。

P.A. で一番大事なところは、このミキサーを如何に上手く使うかで、オペレーターの技量で左右されます。この作業に集中すると、試技自体は見えなくなります。

○会場で使う曲目について

以前ここにも書いたことがあります。ジャンルはテクノ、スーパーユーロビート、クロスオーバーなど幅広く用意してます。曲数も多分 1000 曲近くは あります。

power S R A T A M L E S C M E

曲のバリエーションも無く、10曲程度で1日、2日と使い回してる会場では場内に居る人みんなが飽きてイライラするのは言うまでもありません。探す方も大変ですが「またこれ〜！」みたいなことを言われない為に、色々集めて出して頂けるといいでしょう。

○その他

機材をレンタル出来たとしても、結線を間違えれば音は絶対に出ません。また、トラブルなく済ますのも練習が必要です。全国大会などの様に前日に準備を出来る時間がある場合は、トラブルシューティングも可能ですが、地方、ブロック大会などは集合時間と同時に搬入、組み立てを始めるので、最低時間内に組めるかというのも大袈裟な話しではなく大事です。

更に結線が出来たとして、音のチェックを始めるときに「音が出ない」「どっかからノイズが出る」「マイクを握ったら感電する」などのトラブルに遭遇することがよくあります。

そんな対応をレンタルするお店では教えてくれませんし、会場で発生したら誰も助けてくれません。

どうすればいいか？

レンタルするときにオペレーターも同時に発注すること。レンタルでなく持ち前の機材があるなら、オペレーターのみを発注（これを地場と呼ぶ）するかに分かれます。競技や機材に精通してる人に最初から依頼を出せば最終的に安くつくと考えますが、普通の買い物ではないので、ピンと来ないかと思います。

ただ、機材に精通して持ち込む人は、ケーブルなどもスペアが必ず用意してあって、トラブルが出たら、迷わずケーブルを交換しますし、各機材の信号を見て何処から音が出なくなってるかを発見します。

同じ競技を活かすも殺すも P.A. オペレーターのウデの見せ所です。興味がある方は北陸地域で自分が担当する会場にお越し頂ければ操作の方法を説明出来ると思います。

是非ともお越し下さいませ。



